

2. 開催実績

2-1.参加者数

2-2.参加施設

2-3.参加ボランティア

2-4.成果と課題

2. 開催実績

2-1 参加者数

■総数

第1回 2006年	1,426名
第2回 2007年	1,706名
第3回 2008年	1,993名
第4回 2009年	1,920名
第5回 2010年	1,712名

■内訳

	参加者	参加ボランティア	一般来場者
第1回 2006年	23施設 296名 ●認知症者／179名 ●関係者／117名	160名 ●介護ボランティア／112名 ●運営ボランティア／48名	970名
第2回 2007年	31施設 420名 ●認知症者／241名 ●関係者／179名	185名 ●見守りボランティア／142名 ●寄り添いボランティア／43名	1,101名
第3回 2008年	42施設 581名 ●認知症者／338名 ●関係者／243名	299名 ●見守りボランティア／179名 ●寄り添いボランティア／120名	1,113名
第4回 2009年	35施設 645名 ●認知症者／336名 ●関係者／309名	152名 ●見守りボランティア／110名 ●寄り添いボランティア／42名	1,123名
第5回 2010年	32施設 553名 ●認知症者／314名 ●関係者／239名	300名 ●見守りボランティア／153名 ●寄り添いボランティア／147名	859名

2-2 参加施設 32 施設 (●認知症の方/314名 ●関係者/239名)

	施設名
1	(有) グローバルケア
2	グループホーム 吉兵衛どんの郷
3	グループホーム 愛 八幡
4	グループホーム しあわせ
5	グリーンリーフ星ヶ丘
6	八幡ナーシングケア 多機能ホーム
7	双葉苑デイサービスセンター
8	(株) 芳野ケアサポート小規模多機能施設ふたじま
9	特別養護老人ホーム もみじ苑
10	ケアハウスらいふ 戸畑
11	グループホーム らいふ
12	ふれあい家族
13	ハンドツウハート (有) グループホーム 谷町きょうわ苑
14	グループホーム のんきさん
15	グループホーム 第2ふれあい家族
16	社会福祉法人年長者の里 グループホーム大蔵
17	医療法人ふらて会 やすらぎ
18	ふらて福祉会 デイサービスセンター恵迪館
19	ふらて福祉会 ケアハウス恵迪館
20	ふらて福祉会 グループホーム森の家
21	NPO 法人 生きがい創造塾
22	ふらて福祉会 ショートステイ
23	グループホーム きずな
24	重住ケアセンター
25	社会福祉法人せいうん会 デイサービスセンター 菜の花
26	グループホーム みどり
27	グループホーム やまびこ
28	デイサービスセンター とばた
29	ふれあい家族 デイサービス長行
30	グループホーム 花みずき
31	デイホーム げんきさん
32	多機能ホーム おたがいさま

2-3 参加ボランティア

152名 ●寄り添いボランティア／147名

●見守り ボランティア／153名（緑ブルゾン、緑ビブス、緑法被
オレンジジャンパー、白ジャンパー）

	所 属	寄り添い	見守り
1	新日鐵八幡記念看護専門学校	39	
2	夢追いバンク		2
3	ヒビッキークラブ		6
4	慶成高等学校	23	
5	八幡西区ボランティアセンター		1
6	北九州小倉看護専門学校	2	
7	株式会社 楽々サービス	3	
8	九州リハビリテーション大学校 学生	76	
9	下関看護リハビリテーション学校	3	
10	山田グリーンネット		13
11	個人(申込)	1	1
12	北九州市保健福祉局		13
13	住友生命北九州支社		32
14	北九州 ESD 協議会		1
15	北九州市立大学ひびきのキャンパス 学生		12
16	老いを支える北九州家族の会		2
17	福岡県グループホーム協議会		10
18	富永音楽事務所		5
19	北九州市立大学コーラス部		6
20	NPO 法人北九州小規模連		2
21	義農の会		3
22	メタルアート		2
23	北九州市小倉北区役所まちづくり推進課		3
24	北九州市社会福祉協議会		9
25	ポニーテール		3
26	もりのセミナー関係者		2
27	実行委員および関係者		25
	合計	147	153

2-4 成果と課題

■第5回 2010年

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■一時雨天にも関わらず、多くのご参加を頂いた。 ■テントを増設したため、多くの参加者に日陰でくつろいで頂いた。 ■合唱により会場の一体感が増し、来場者に楽しんで頂いた。 ■学生のボランティアが多く参加し、寄り添いボランティアに貢献した。 ■例年、混雑する受付での対応がスムーズであった。 ■車いすを106台借用したため、不足がなかった。
<p>課題と今後の展望</p>	<p>〈今後の展望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ボランティアもイベントに参加して楽しめるよう工夫する。 ■森の家北側の芝生広場が広いので、利用方法を検討し、会場を広々と使う。 ■各イベントについて、事前に告知し、当日参加できるような開かれた内容にしていく。 ■個人のボランティア参加は、役割を明確にし、運営に有意義に参加できる体制を整える。 ■受付は、受付票を作成する等して、よりスムーズに対応できる体制をつくる。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実行委員会の開催が遅れ切迫したスケジュールとなった為、会期の前年度内に予定を計画する。 ■車の乗降場所を事前に告知しておかないと、車いすを参加者に渡すのが遅れ、危険である。 ■ボランティアもイベントに参加して楽しめるよう工夫する。 ■見守りボランティアの一部で、手が空いている時間がある者がいた。 ■セミナー（大会議室）は途中参加がしづらい。 ■ボランティア同士の交流がない。 ■もりのセミナーが1時間延長になった。 ■トイレの汚れが目立った。 ■ボランティアの運営は、会期前にレクチャーを実施する等の検討が必要。 ■予決算について、実行委員が主体的な立場を持てるよう検討したい。

■第1回 2006年

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■認知症高齢者が、自然の中で自分らしく、楽しんでいただける機会を提供できた。 ■介護する家族や介護スタッフにとっても、日頃の疲れをリフレッシュする機会となった。 ■環境系と福祉系のボランティアがそれぞれのノウハウを交換し、コラボレーションできたと同時に、市民団体、企業、行政等が幅広い協働によって、運営が行われた。 ■多くの市民に認知症について考えていただくきっかけとなった。 ■公園や緑地の新たな活用法を提案することができた。
<p>課題と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■身近な地域でも行える方法と態勢作り（地域のサポート体制等）。 ■こどもから大人までが当たり前ふれ合い、支え合う意識の醸成。 ■行政の枠にとどまらない「まちづくり」の発想による展開。

■第2回 2007年

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■参加者人数が第1回目より増え、多くの方に楽しんでいただけた。 ■青空の下でご本人やその家族の声を聞くことで、日頃の疲れをリフレッシュできたと同時に、様々な問題や思いを共有する良い機会となった。 ■イベント当日、またメディア等を通して、多くの方の認知症への意識向上へ繋がる結果となった。 ■「協働」をテーマに、行政、医療機関、市民、NPO、学校、企業、事業者等、幅広い様々な団体によって、昨年と比べより充実した内容となった。
<p>課題と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■在宅の認知症の方に参加していただくためのアプローチ方法と交通手段をどうすべきか。 ■イベントから普段の暮らしの中に発展させていくために、地域の中の意識向上にどう繋げるべきか。 ■より参加しやすく、より喜ばれる事業とするために、PRチラシの配布方法、開催時間の見直し、受付の場所、具体的な検討も必要。

■第3回 2008年

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■幅広い領域のグループ、年齢層のボランティアの参加で、視点やサポートが充実し、参加者の方に安心して楽しんでいただくことができた。またその中で、普段の生活の中にあるような自然な参加者間のふれあいが多く見られた。知症高齢者が、自然の中で自分らしく、楽しんでいただける機会を提供できた。 ■サポートをするボランティア自身も楽しく、意識向上につながり、充実した時間を過ごすことができ、参加者との相互関係を築くことができた。 ■地元の自然の中で、ご本人やご家族が語り合ったり、グループホームの方たちの地域での取り組みなどについてお話があったり、つながりを通して、認知症について同じ地域に暮らす人が一緒に考えることができた。 ■新しい催しの中で、子ども達の参加や音楽などもあり、より充実した内容となった。
<p>課題と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■身近な地域でも行える方法と態勢作り（地域のサポート体制等）。 ■こどもから大人までが当たり前前にふれ合い、支え合う意識の醸成。 ■行政の枠にとどまらない「まちづくり」の発想による展開。

■第4回 2009年

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■青空まちづくり教室（宮城県、藤井寺市、久万高原町の3者がパネリストとして参加）を開催し、他都市の取り組みの共通点や相違点を共有する場を設けた。 ■インフルエンザが流行する中、一般の来場者が昨年より増加した。 ■イベントの開催時刻が重なる点があることで、もりという多様性のある空間で、多様な参加の仕方が生まれた。 ■第10回介護保険推進全国サミット in 北九州との連携を図り、全国からの来場者を招くことができた。
<p>課題と今後の展望</p>	<p>〈今後の展望〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■認知症以外の方についても来場を促進させる。 ■広報の手段を多様化させ、もりフォーラムを広く一般に知ってもらう。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■在宅の方の参加が少ない。 ■認知症サポーターの活躍の場として、参画する方法が提示できていない。 <p>〈運営上の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ■昼食の数が不足した。 ■駐車場が混雑した。 ■シャトルバスの乗車場所が分かりづらいとの問い合わせがあった。

